

令和 5 年度 事業報告書

社会福祉法人 長崎市社会福祉事業団

目次

総括	1
I 事務局	2
II 身体障害者福祉センター A 型	9
III 地域活動支援センター II 型事業	12
IV 障害児等療育支援事業	13
V 相談支援事業	18
VI 自立訓練（機能訓練）事業	22
VII 障害者就労支援相談所運営事業	24
VIII 児童発達支援センター「さくらんぼ園」（単独通園）	25
児童発達支援センター「さくらんぼ園」（親子通園）	32
IX 診療所	36
参考 「利用状況の推移」	41

総 括

当事業団は、長崎市障害福祉センターの指定管理者として、施設の安全管理の徹底、福祉サービスの質の向上を図るとともに、健全な経営に努めました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度及び3年度には5回、計163日の休館を余儀なくされ、令和4年度までの3年間は、利用者が減少するなどセンターの運営にも大きな影響がありました。令和5年5月8日に新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことに伴い、引き続きの感染対策はとりながらも、身体障害者福祉センターA型事業の利用者数が増加するなど、少しずつコロナ前の状態に戻りつつあるというような状況です。また、文化祭につきましても4年ぶりに有観客で開催することができ、たくさんの観客に見守られながら大いに盛り上がったところです。

事務局では、総合的な企画・調整や経営に関する総括的な管理業務の中で、理事会・評議員会の開催や予算・決算業務を行うほか、事業団職員の資質向上を図るため、外部研修会への参加を促すとともに内部研修会も実施し人材育成に努めました。

また、各障害者団体や利用者からのご意見やご要望について、適切に対応し改善に努めるとともに、各種会議に参加することで地域福祉の増進に貢献しました。

成人部門では、障害者が自立した社会生活を営むことができるよう、それぞれの環境に応じた機能訓練や日常生活訓練、またスポーツ・レクリエーションを通じた訓練を行いました。

貸館等のサービスにおいても、利用者にも基本的な感染防止対策の協力をお願いしたうえで、趣味・教養・健康づくり等のレクリエーション活動を支援しました。

小児部門では、診療と療育部門において発達に障害がある児童等を早期に発見し、それぞれの状況に対応した適切な療育を実施するため、相談・診察・評価で得られた総合的な結果に基づく治療、個別訓練や小集団による療育指導を行うほか、保護者への支援に努めました。

また、児童発達支援センター「さくらんぼ園」が持つ専門機能を活かし、心身の発達に遅れのある未就学児を対象に、遊びを中心に据えた療育と基本的な生活習慣の確立・コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、親子通園の「きりん組」では、児童の発達状況と障害の程度を考慮してグループ分けし、それぞれの状況と障害の程度に応じた発達支援に努めました。

障害児等の療育支援では、外来による療育指導のほか、感染防止対策を徹底して専門療法士による幼稚園等への訪問指導を行うとともに、学校や幼稚園・保育園等の職員が障害児に適切な対応ができるよう、療育技術の指導を行いました。

成人・小児の両部門に関わる**相談支援**では、障害児・者やその家族等の相談に対し、課題を把握しながら、ケアマネジメントに基づいた福祉保健医療サービスの調整や関係機関との連絡調整をする等支援しました。また、障害者の就労が実現できるよう相談支援や就労準備のための支援に努めました。

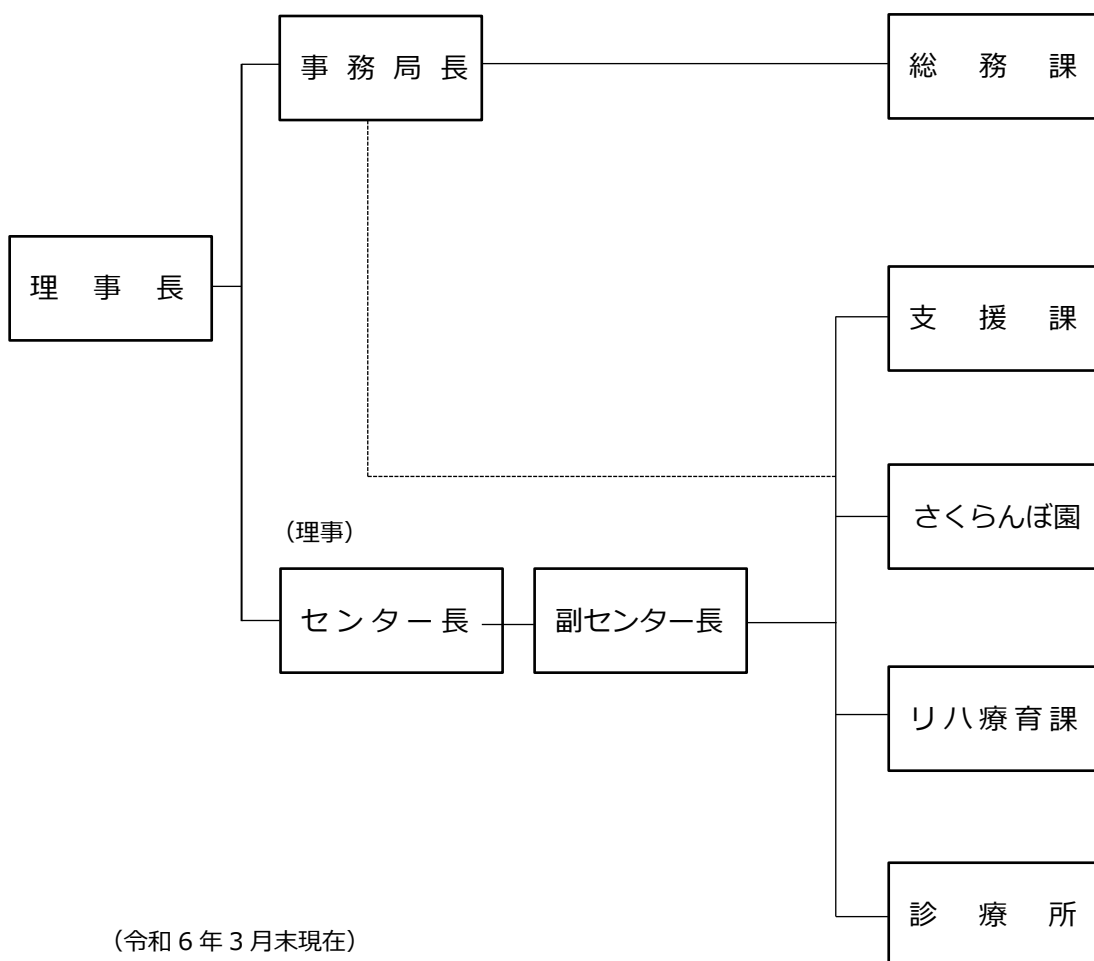
令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが季節性インフルエンザと同等の「5類」に移行されましたが、季節性インフルエンザを含めて引き続き適切な感染防止対策を実施しながら、地域福祉の増進を図るため、今後とも利用者のニーズに応じた利用者本位のサービスを提供していくとともに、安定した経営組織の構築を図り、透明性の高い施設運営に努めてまいります。

I 事務局

1 施設・事業の形態

施設・事業名	事業形態
事務局	長崎市受託事業
身体障害者福祉センターA型	
地域活動支援センターII型事業	
障害児等療育支援事業	
自立訓練（機能訓練）事業	
相談支援事業	
障害者就労支援相談所運営事業	
児童発達支援センター「さくらんぼ園」	
診療所	

2 組織図



3 組織及び職員配置 (表内の人数は定数です)

令和6年3月末現在

課名	業務内容	職種等の状況	職員数(配置数)				
			正規	嘱託	再雇用	市派遣	非常勤
		・理事長		1			
総務課	・法人業務に関すること ・センターの総務に関すること ・建物の維持管理に関すること	・事務局長 ・事務職員	2	3		1 1	
支援課	・相談支援業務に関すること ・身体障害者福祉センター業務の主に講座、貸館に関すること ・地域活動支援センター事業に関すること ・自立訓練(機能訓練)事業に関すること ・貸館業務に関すること ・手話通訳に関すること ・送迎に関すること	・ソーシャルワーカー ・相談員 ・障害者就労支援相談員 ・聴覚言語相談員 ・手話通訳士・者 ・視覚障害(点字)指導員 ・事務職員 ・運転士	3 2 1	4 2 1			1 3
さくらんぼ園	・児童発達支援センターに関すること	・園長 ・保育士・児童指導員 ・栄養士 ・調理員 ・運転士	1 4	16 1 2	2		3※ 2
※調理員のうち2は隔日勤務のため実質2人							
リハ療育課	・リハビリに関すること ・発達障害者支援に関すること ・自立訓練(機能訓練)事業に関すること ・身体障害者福祉センター業務の主に訓練に関すること	・理学療法士 ・作業療法士 ・言語聴覚士 ・公認心理師 ・障害者スポーツ指導員	4 6 6 3	3 2 1	1		
診療所	・診療所に関すること 【非常勤嘱託の医師4人の勤務状況】 小児科医3人…週2日勤務2人、週1日勤務1人 精神科医1人は月1回勤務	・センター長(医師) ・副センター長(医師) ・診療所長(医師) ・医師 ・看護師 ・医療事務職員 ・事務職員 ・公認心理士	1 1 1	1 1 3 3 1			5 1 1
※診療所業務増に伴い、医師1人(非常勤)、医療事務職員(クラーク)1人(常勤嘱託)をそれぞれ増員している。							
計 (103名)			35	47	3	2	16

* 3月末現在のため上表には記載していないが、R6年度から下記のとおり予定している
 ・体制強化のため、診療所医師(正規)、さくらんぼ園保育士・児童指導員(正規)をそれぞれ1人増員する。
 ・体制強化のため、支援課ソーシャルワーカー、リハ療育課理学療法士それぞれ1人を正規化する。

4 理事会の開催

	開催日・開催場所	議 案	結果
第1回	令和5年6月12日 (オンライン会議)	1 評議員選任・解任委員の選任について 2 理事・監事候補者について 3 評議員候補者を評議員選任・解任委員会に推薦することについて 4 保有個人情報等安全管理措置規程の制定について 5 令和4年度事業報告について 6 令和4年度決算について 7 令和5年度評議員会の開催について ※ 理事長の業務執行状況報告	可決 可決 可決 可決 承認 承認 可決
第2回	令和5年6月28日 (書面会議)	1 理事長の承認について	可決
第3回	令和5年10月23日 (オンライン会議)	1 評議員候補者について 2 理事候補者について 3 臨時評議員会の開催について	可決 可決 可決
第4回	令和5年11月1日 (オンライン会議)	1 理事長の選定について	可決
第5回	令和6年1月11日 (オンライン会議)	1 職員の定年等を定める規則の制定について 2 再雇用職員就業規則の一部を改正する規程について 3 嘱託員等就業規則の一部を改正する規程について 4 給与規程の一部を改正する規程について 5 経理既定の一部を改正する規程について	可決 可決 可決 可決 可決
第6回	令和6年3月20日 (オンライン会議)	1 定款の変更について 2 給与規程の一部を改正する規程について 3 補正予算(第1号)について 4 令和6年度事業計画について 5 令和6年度当初予算について ※ 理事長の業務執行状況報告	可決 可決 可決 可決 可決

5 評議員会の開催

	開催日・開催場所	議 案	結果
定時	令和5年6月27日 (オンライン開催)	1 理事の選任について 2 令和4年度決算について 【報告】令和4年度事業報告について	可決 承認
臨時 第1回	令和5年4月26日 (書面会議)	1 役員及び評議員の報酬並びに費用弁償に関する規程の一部を改正する規程	可決
臨時 第2回	令和5年10月31日 (オンライン会議)	1 理事の選任について	可決
臨時 第3回	令和6年3月28日 (書面会議)	1 定款の変更について	可決

6 監査の実施

	実施日・開催場所	監 査 項 目
監事 監査	令和5年5月26日 於：1階相談室B	令和4年度事業実施に関する事項 令和4年度会計・決算に関する事項

7 要望や苦情等の対応状況

(1) ハートセンター懇談会における要望事項及び対応状況

- ・長崎市中心身障害者団体連合会主催による懇談会。
令和5年度においては、これまでの要望が実現していることから、要望がないとのことで開催していない。

(2) 各階設置のご意見箱等への主な「意見・苦情等」の対応状況

- ・回答については1階掲示板に掲示。(申出人が判明している場合は、直接、回答)
- ・第三者委員への報告会を年に2回開催。(令和5年9月15日・令和6年3月15日)

日付	意見・苦情等	対応状況
4月14日	お風呂の際に、タオルを忘れた方にタオルを販売してください。	タオル販売は導入に向けて検討する旨回答。 ※「愛のタオル」を購入して、実費で販売することにした。
4月14日	いつも早く来館しているのに、なぜいつも立体駐車場に停めさせるのか。	駐車場に駐車できる台数は限られており、一定の大きさを超える車両は立体駐車場は対応できないことから、立体駐車場に駐車可能な車両には立体駐車場への駐車をお願いしている旨回答。
5月19日	男性のプール更衣室にある衣類のせの台車が古く強度がなくて使いにくい。また、2~3台増加してください。	プールの台車については、たしかに古く、強度も弱いことから、台数も含めて新しい台車を準備する旨回答。 ※女子更衣室も含めて、6台購入して入れ替えた。
6月23日	浴室の脱衣場が暑いので、扇風機が2台ほしい。	男女とも1台は設置しているが、脱衣場は浴室からの湿気がたまり暑くなるため、壁や天井に設置する扇風機を増設する旨回答。 ※男女とも6月中旬に設置完了
7月7日	5階の休憩スペースの机の配置を2台を向かい合わせにするのではなく、それぞれ壁に向けてほしい。1か所に1人しか座ってなく、相席を好まない方もいるので、効率が悪い。	机2台を向かい合わせに付けて3組準備していたが、2台向かい合わせを1組、1台ずつを4組離して設置するように変更した。
9月29日	図書室のパソコンの動作が遅い。	長崎市の備品であるため、予算を確保して入れ替えをしたい旨回答。 ※令和6年度予算で買い替え予定。
12月15日	図書室に「図書の無断利用が増えています」との掲示があるが、数年間同じ掲示はどうか。また、文言もあまり気持ち良いものではない。	「図書の貸し出しを希望される方は、担当までお声がけください」との文言に変更した。 また、掲示物は定期的に見直すとの回答をした。

8 講師派遣・会議出席・外部研修参加の状況

(1) 主な講師派遣の実績

講演内容等	主催	時期	派遣者
第47回九州地区難聴・言語障害教育研究会 長崎大会	長崎市民会館	8月	さくらんぼ園園長
令和5年度職業人インタビュー	県立長崎明誠高等学校	5月	保育士
2003年度施設一日体験学習	長崎純心大学	6月	さくらんぼ園園長
発達障害児等能力開発・教育支援推進事業	県立長崎特別支援学校	6・11月	言語聴覚士

こどもの保健	長崎大学教育学部	10～3月	診療所長
精神保健	長崎医療こども専門学校	10～12月	スポーツ指導員
校内研修（講話）	市立茂木小学校	12月	診療所医師
第60回中途視覚障害者のつどい	ハートセンター	2月	視覚障害者リハ指導員

(2) 主な会議等への参加実績

会議内容	主催	時期	参加者
長崎市障害者自立支援協議会こども部会	長崎市障害者自立支援協議会	4～3月	支援課長、さくらんぼ園園長
長崎市自立支援協議会・相談支援部会	長崎市障害者自立支援協議会	5・2月	支援課主幹、相談員
意思疎通支援・相談支援担当者会議	長崎県聴覚障害者情報センター	5～2月	手話通訳士、手話通訳者、聴覚言語相談員
児童発達支援センター等連絡会	県立こども医療福祉センター	7月	支援課長、さくらんぼ園園長
長崎市消費者安全確保地域協議会総会	長崎市消費者安全確保地域協議会	9月	支援課長
長崎市障害者自立支援協議会・就労支援部会	長崎市障害者自立支援協議会	9～3月	就労相談員
専任手話通訳者会議	九州地区専任手話通訳者連絡協議会	10月	手話通訳士
長崎市親子支援ネットワーク地域協議会	長崎市子育てサポート課	11月	支援課相談員
長崎県発達障害者支援センター連絡協議会	長崎県発達障害者支援センターしおさい	1月	支援課長

(3) 主な外部研修への参加実績

研 修 内 容	開 催 場 所	時 期	参 加 者
子どもの心の支援にかかわる高度人材育成プログラム	オンライン研修	4～3月	作業療法士、看護師
第65回日本小児神経学会学術集会	岡山市 オンライン研修	6月	現地：診療所長、医師2名 オンライン：副センター長、 医師2名
プール安全管理講習会	長崎市	6月	理学療法士1人、保育士1人
長崎県サービス管理責任者等更新研修	長崎市	8月	理学療法士1人
長崎県相談支援従事者初任者研修	当センター 大村市	9～11月	支援課相談員1人 保育士1人
長崎県強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）	当センター	9・10月	保育士2人
長崎県障がい者スポーツ指導者スキルアップ研修会	諫早市	8月	障害者スポーツ指導員1人
長崎県医療的ケア児等支援者コーディネーター養成研修	諫早市	10月	ソーシャルワーカー1人
長崎県相談支援従事者現任研修	当センター(10月) 大村市(10・12月)	10～12月	聴覚言語相談員1人
長崎県サービス管理責任者等基礎研修	大村市	11月	保育士1人
児童福祉施設給食関係者研修	オンライン研修	12月	栄養士1人
地域療育従事者研修会	諫早市	11月	保育士2人
長崎県障害者虐待防止・権利擁護研修会	長崎市	12月	保育士1人
特定給食施設等調理従事者研修会	オンライン研修	12月	栄養士1人、調理員3人
長崎県サービス管理責任者等実践研修	長崎市	1・2月	保育士2人
全国社会福祉事業団協議会九州ブロック職員研修会	北九州市	1月	事務職1人
長崎県強度行動障害支援者フォローアップ研修	オンライン研修	2月	児童指導員1人
手話通訳士専門研修会	当センター	3月	手話通訳士1人
言語聴覚士研修会【吃音の臨床(基礎編)】	オンライン研修	3月	言語聴覚士1人

(4) 主な内部研修の実施状況

研 修 内 容	実 施 日	参 加 者
新任職員研修	4/1・12	R5年度採用者及び前年度未受講者
虐待防止研修	1/16	全職員（一部は後日、録画視聴で実施）

9 その他

(1) 消防避難訓練

期 日	実 施 対 象	訓 練 内 容
令和 5 年 9 月 22 日	ハートセンター全館 (実施主体：障害福祉センター)	<ul style="list-style-type: none">・初期消火及び避難誘導・本部、救護所の設置及び避難時間計測・水消火器による模擬消火体験・北消防署による講評
令和 6 年 2 月 22 日	ハートセンター全館 (実施主体：原爆被爆者対策協議会)	<ul style="list-style-type: none">・初期消火及び避難誘導・本部、救護所の設置及び避難時間計測

(2) 広 報

広報紙「もりまち通信」を年 4 回（各 500 部）発行し、関係機関へ配付。

主な配付先は、長崎市の関係所属、医療機関、長崎市心身障害者団体連合会、福祉施設等。

II 身体障害者福祉センターA型

障害者に対し、機能訓練、教養の向上、社会との交流促進及びスポーツ・レクリエーション等、総合的なサービス提供を行った。

1 実施内容

(1) 令和5年度末センター登録者数

(単位：人)

視覚障害	42	聴覚障害	43	延人数 762 実人数 694
音声・言語	28	肢体不自由	265	
内部障害	73	知的障害	141	
精神障害	147	その他	23	

(2) 貸館業務

プール・体育館等の運動施設や、研修室・会議室等の文化教養施設を障害者団体やボランティアグループ等に無料で広く開放。また、一部の施設は一般の団体・個人へ有料で開放。

休館日は、毎月第4日曜日及び年末年始(12月29日～1月3日)。木・土曜日は夜間開放。また、12月1日から3月15日までは改修工事のため、体育室は使用できなかった。

《年度別貸館利用者数》

(単位：人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
利用者数	75,015	39,235	36,495	47,864	53,474

(3) センターA型・機能訓練

理学療法士、指導員等の支援のもと、集団体操やふうせんバレー等のスポーツ・レクリエーションを通したリハビリテーションを実施した。プログラムは、障害の状況や利用者の好みに応じて自由に選択できるようになっている。

① 年度別利用者数

(単位：人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
利用者数	12,155	9,502	9,736	11,876	10,924

② 令和5年度 センターA型・機能訓練利用者数内訳

(単位：人)

内 容	視覚障害	聴覚障害	言語障害	肢体障害	内部障害	知的障害	精神障害	その他	合計
プール	1	56	67	1,078	309	31	33	84	1,659
スポ・レク訓練	803	216	194	3,277	33	168	332	5	5,028
自主訓練	422	82	46	2,828	111	9	451	7	3,956
作業訓練(手工芸)	9	56	1	77	7	0	15	5	170
言語訓練	0	8	103	0	0	0	0	0	111
合計	1,235	418	411	7,260	460	208	831	101	10,924

(4) 年間行事

利用者間の交流と日頃のリハビリ活動の成果発表を目的に、競技会・体験会等を開催した。

行事名	実施日	参加人数 (ボランティア等含む)
水泳記録会	5月25日	6人
チャレンジボッチャ	7月5日	31人
お楽しみふうせんバレー	10月13日	59人
お花見ウォーキング	4月2日	25人

(5) 講座

障害者の社会参加・センターの利用促進・仲間づくりの場を提供するため、文化・芸術・スポーツなど多様な講座を実施。

① 年度別利用者数

(単位：人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
利用者数	429	75	100	264	240

※サポーター養成研修は別掲

② 令和5年度講座利用者数内訳

(単位：回、人)

内 容	回数	延参加者数
リラクゼーション講座	2	29
大人のぬり絵講座	3	21
こころの健康講座	1	31
車いすソフトボール体験講座	1	16
フラワーアレンジメント	1	13
防災セミナー	1	47
栄養講座（視覚障害者限定）	1	31
はじめてのスマホ講座	1	26
栄養講座	1	26
合 計		240

(6) 地域との交流事業

利用者の練習成果の発表の場として「ハートセンター文化祭」を実施。令和5年度のステージ部門は4年ぶりに有観客での開催。展示部門はセンター各階に1か月間の分散展示。

名称等	期日	内容・目的	観覧者数
ハートセンター 文化祭	11月19日	ステージ発表（9団体）	約350人
	11月1日～11月30日	展示と活動紹介（17団体）	-

(7) 手話通訳設置事業

市役所に配置されている手話通訳者と連携を図りながら、センター内外での手話通訳はもとより、聴覚障害者の相談支援等に努めた。感染症対策でオンラインも普及し定着してきたため、対面とオンラインで対応した。

《年度別手話通訳件数》

(単位：件)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
手話通訳件数	3,560	2,826	3,368	3,678	3,895

(8) サポーター養成研修会

当センターの事業のサポーター養成のため研修会を実施した。

《年度別参加者数》

(単位：人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
参加者数	36	(中止)	11	15	17

【総論】

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症による行動制限もなくなり、利用者数は少しずつだが増加傾向となった。

講座については、初めての企画として、スマホ講座や視覚障害者に対象を限定した栄養講座を実施し、参加者からは好評を得ることができた。今後も利用者のニーズを模索しながら、新たな講座の企画、実施により利用者増に繋げていきたい。

R5年12月～R6年3月体育室床の改修工事に伴い、センターA型・機能訓練の集団プログラム(体操・スポレク)は、場所を1F軽スポーツ室に移し、臨時プログラムを実施した。

Ⅲ 地域活動支援センターⅡ型事業

在宅の障害者に、創作的活動や社会との交流を通して身体機能の維持向上と生きがいを高めてもらうプログラムを提供した。

なお、一部の事業については身体障害者福祉センター A 型と合同で実施した。

1 契約者の推移 各年度末 (単位:人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
契約者数	189	257	300	370	413

2 利用者数の推移及び内訳

(1) 年度別利用者数 各年度末 (単位:人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
利用者延べ人数	12,507	7,911	6,476	7,293	6,966

(2) 利用者数内訳 (単位:人)

内 容	視覚障害	聴覚障害	言語障害	肢体障害	内部障害	知的障害	精神障害	その他	合計
スポ・レク訓練	0	0	0	309	0	0	2	0	311
自主訓練	0	1	1	109	0	0	0	0	111
手工芸	32	242	5	732	27	0	3	25	1,066
陶芸	0	4	1	48	35	15	35	0	138
パソコン	0	14	23	43	87	11	41	5	224
入浴	232	662	220	2,244	715	284	759	0	5,116
合計	264	923	250	3,485	864	310	840	30	6,966

【総論】

新型コロナによる利用控えや体調不良等による欠席もあり、コロナ禍前の利用者数には至っていない内容が多い中、手工芸の利用者数は増加しており、自分のペースで趣味を広げられる活動へのニーズの高さがうかがえた。

今後は、新規利用者獲得のための周知や利用者が参加しやすいようなプログラム作りに努め、利用者増に繋げていきたい。

IV 障害児等療育支援事業

他機関との重層的な連携のもと、在宅の重度障害児・者、知的及び身体の障害児・者が、地域での療育相談や指導が得られるようにすることを目的として、「外来による療育指導」「訪問による療育指導」「施設職員等に対する療育技術指導」を柱に地域支援を行った。

1 事業内容

(1) 外来による療育指導

保護者支援として、検査結果の説明や訓練の目的や内容についての説明、家庭生活や園生活での困りごとや心配事への指導・アドバイス等を行っていたが、8月から、医療として行った検査結果の説明や生活への指導、アドバイス等は、福祉サービスではなく医療サービスとしての実施が望ましいという考えにより診療所の訓練の中に含むようにしたため、件数が減少している。

毎週木曜日午前の早期療育外来（整形外科）の診察の際には、理学療法士が同席し、その後の療育指導が円滑に行えるようにしており、午後の整形外科診察においても理学療法士が同席し、補装具の作製などに関する助言をしている。

このほか、おやこ広場や就学児相談会などの診療所訓練外の療育支援、診療外での保護者支援も行った。

①年度別職種毎の指導件数

(単位：件)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
理学療法士	626	540	357	151	10
作業療法士	501	570	933	752	95
言語聴覚士	458	485	981	1,020	87
臨床心理士	1,560	1,158	801	762	145
保育士	33	26	32	50	38
スポーツ指導員	249	165	119	231	141
合計	3,427	2,944	3,223	2,966	516

※きりん組園児への指導件数 (①と別掲。療育指導の合計件数は769件)

(単位：件)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
作業療法士	338	405	206	194	117
言語聴覚士	283	158	485	222	86
臨床心理士	314	146	100	165	50
合計	935	709	791	581	253

○②おやこ広場

発達や育児に関する疑問や不安を抱えている 2 歳までの早期産児・出生時ハイリスク児の保護者を対象に、親子遊び・講話・交流会からなる自由参加型のグループを設け、情報交換や交流の場とした。担当は、理学療法士、保育士を中心とし、テーマによりソーシャルワーカー、言語聴覚士、作業療法士が講師を務めた。

令和 4 年度までは新型コロナウイルス感染症の状況等を考慮し、案内チラシの配布もこども健康課や近隣の医療機関等への配布を見合わせて当センター利用児に限定した呼び掛けとするなど小規模で開催したことから、少人数ではあった。令和 5 年度は近隣の医療機関等への配布を再開したこともあり、前年度より増加傾向にあった。

《年度別利用者数》

(単位：人)

年 度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
利用者数	49	14	8	9	24

《令和 5 年度実施状況》

(単位：人)

実施日	講 話	参加数	実施日	講 話	参加数
5 月 10 日	みんなで楽しく身体を動かそう	1	9 月 6 日	おやこのきずなを深める遊び	4
6 月 7 日	おやこで一緒に作ろう！	1	10 月 4 日	ことばを育むためには	4
7 月 5 日	やってみよう！おうちでできる感覚遊び	1	11 月 1 日	お悩み相談会	5
8 月 2 日	みんなで涼しくなろう	3	12 月 6 日	クリスマス会	5

③就学児相談会

1 学期終了後、夏休みの時期に開催案内と近況についてのアンケートを送付し実施した。

児の特性からくる集団での不適切な行動、学習理解等の苦手さ、情緒的な問題の相談内容が多かった。就学後も定期的に受診を続ける児も増えてきており、あらためての相談が必要な児は減ってきている。

◇開催日 令和 5 年 9 月から令和 6 年 1 月の希望日時

◇対 象 令和 4 年 4 月から令和 5 年 3 月までに当センターで療育または定期診察等を受けて、新 1 年生になった児童の保護者

◇内 容 事前に就学後の様子についてのアンケートを実施。学童グループや診察・処方・個別療育等でのフォローがなされていない児童で相談を希望した保護者に対して、各セラピストが個別で面談を実施し、助言や診察につなげるなどの支援を行った。

《年度別相談件数》

(単位：件)

	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
アンケート送付数	236	198	253	257	202
相談会案内送付数	130	106	88	121	149
相談件数	27	21	20	15	27

④待機児支援「りす組」

発達外来の診察や療育の待機の間、お子様の特性や発達状況について理解することや不安を抱える親子の交流の場を提供

◇開催日 令和5年4月から令和6年3月 月2回火曜の午前中に企画

◇対象 療育待機または診察待機の親子（概ね3歳未満の子）

《令和5年度実施状況》

実施日	活動	参加組	実施日	活動	参加組
4月	コロコロで遊ぼう	2	10月	コロコロで遊ぼう	2
5月	ゆらゆらで遊ぼう他	4	11月	ビリビリで遊ぼう他	3
6月	パラパラで遊ぼう他	3	12月	クリスマスかざりをつくろう他	4
7月	ペタペタで遊ぼう	5	1月	豆まきごっこ他	5
8月	おまつりごっこ他	5	2月	ペタペタで遊ぼう他	4
9月	お楽しみ会他	4	3月	お楽しみ会	2

⑤親子ルーム「くま組」

重い障害（医ケア含む）のあるお子様を対象に親子で楽しめるお遊びの場を提供

◇開催日 令和5年4月～令和6年3月 毎週金曜日 11:00～12:00

◇対象 低年齢で歩行未獲得、重度の障害（医ケア含む）のあるお子様とその家族

《令和5年度実施状況》

実施日	活動	参加組	実施日	活動	参加組
4月	ふわふわ遊び他	6	10月	ひらひら布遊び、ハロウィン製作他	16
5月	さらさら遊び他	8	11月	ペタペタ遊び他	14
6月	紙遊び、七夕飾り他	16	12月	クリスマス飾りをつくろう他	13
7月	キラキラで遊ぼう他	17	1月	ボール遊び、かわいい鬼さん他	17
8月	ころころで遊ぼう他	13	2月	豆まきごっこ他	13
9月	音楽遊び他	13	3月	お楽しみ会他	15

(2) 訪問による療育指導

当センターで療育している幼児が通う保育園や幼稚園を訪問し、指導助言をおこなったり、重症心身障害児に対し現状確認を行い、補装具の調整等の環境設定、ポジショニング等について助言指導等を行っている。スタッフの業務が多岐にわたっており、訪問ではなく、できるだけセンター内での指導を行うようにしている。

《訪問療育指導数》

(単位：人)

訪問先	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
家庭	8	9	6	1	2
保育園・幼稚園	28	31	13	23	36
特別支援学校	11	3	0	0	1
小中学校(普通)	5	3	2	4	6
他機関	4	1	0	0	2
計	56	47	21	28	43

(3) 施設職員等に対する療育技術指導

当センターで療育中の児童が通園している学校、幼稚園・保育園等の職員に診察に同席してもらい情報交換をおこなった。また、療育状況を見学してもらい、児童の状態、療育目的等を説明し園等での指導方法をアドバイスした。

《他施設職員等に対する療育技術指導数》

(単位：人)

対象施設	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
保育園・幼稚園	88	89	24	19	34
特別支援学校	51	23	21	9	20
小学校(普通)	142	96	62	85	70
中学校・高校	37	23	17	9	6
他機関	59	32	35	70	59
計	377	263	159	192	189

(4) 療育支援セミナーの開催

テーマ	第2回セラピストのための情報交換会
内容	グループワーク形式での情報交換
日時	令和5年7月13日(木) 19:00~20:30
参加者	48名

テーマ	第1回事例検討会
発表者	多機能型事業所なめし 中道智堯氏（理学療法士） 長崎記念病院 荒谷優奈氏（言語聴覚士）
日時	令和5年11月2日（木）19:00～20:30
参加者	28名
テーマ	療育支援講演会 「子どもの脳を傷つけない子育て～マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ～」
講師	友田明美先生（福井大学 子どものこころの発達研究センター発達支援研究部門 教授）
日時	令和6年1月20日（土）15:00～16:30
会場	長崎市役所 2階多目的スペース
参加者	100名 ※会場と福井大学をZOOMでつないだ
テーマ	第2回事例検討会
発表者	長崎記念病院 五島凌氏（理学療法士） NPO 法人ことと RINRIN 高石美穂子氏（作業療法士）
日時	令和6年3月7日（木）19:00～20:30
参加者	26名

V 相談支援事業

障害児・者やその家族等の相談に応じながら、障害者の自立と社会参加の促進を図ることを目的として、「1 実施内容」に示す5つの柱により事業展開している。

また、視覚聴覚障害者については、特にきめ細やかな事業により支援の充実を図っている。

今後も長崎市から委託された相談支援事業所として、自立支援協議会の運営協力をしながら地域の相談支援体制の整備を目指す。

1 実施内容

(1)福祉サービスの利用援助

長崎市近郊の福祉事務所やサービス提供事業所等と連携し、ホームヘルパー、デイサービス、ショートステイ等の在宅福祉サービスの情報提供や利用開始にあたっての調整などを行った。

また、相談対応についても生活状況や課題を把握しながら、具体的かつ総合的にサービス提供をするように心がけた。

(2)社会資源を活用するための支援

福祉機器の利用援助、外出・移動や住宅改修の助言、生活情報に関する相談に対応した。

(3)社会生活力を高めるための支援

在宅の障害者を対象に社会生活の幅を広げるための機会提供をした。

(4)ピア・カウンセリング

当事者である障害者団体等の協力を得ながら、聴覚言語相談員を中心に実施した。

(5)専門機関の紹介、関係機関との連絡調整

在宅障害児・者に対するサービス等利用計画作成や当事者及びサービス提供事業所等の担当者とともに担当者会議(個別ケア会議)を実施。また事業所、医療機関、学校、保育園等の関係機関からの問い合わせや相談に対して助言等を行った。

2 項目別相談件数

(1) 支援方法 (延べ人数)

(単位：人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
電話相談	5,093	4,815	4,186	4,187	3,883
来所相談	2,542	2,173	1,959	2,099	2,006
関係機関	200	208	114	88	88
訪問	422	337	362	367	388
個別ケア会議	184	134	129	155	116
同行	118	70	61	43	37
電子メール	342	305	383	292	219
その他	344	323	265	475	709
計	9,245	8,365	7,459	7,706	7,446

※ その他は文書・ファクス等

(2) 主な障害の状況 (実人数)

(単位：人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
身体障害	1,787	1,423	1,502	1,531	1,546
発達障害	90	100	64	50	58
知的障害	191	167	156	136	119
精神障害	111	87	70	79	95
重症心身障害	4	8	5	0	2
高次脳機能障害	1	3	0	4	0
その他※	2,145	1,993	2,329	2,421	2,350
計	4,329	3,781	4,126	4,221	4,170

※ 「その他」の大半は、診断や障害が定かでない幼児期から児童期の対象児である。

(3) 支援内容(延べ件数、重複あり、ピア・カウンセリング含む)

(単位:人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
福祉サービス利用等に関する支援	3,803	3,384	2,951	2,828	2,792
健康・医療に関する支援	1,881	2,162	2,670	2,564	2,416
社会参加・余暇活動に関する支援	1,253	1,102	922	15	10
発達障害に関する支援	1,002	609	316	630	656
障害や病状の理解に関する支援	124	125	64	48	56
保育・教育に関する支援	279	227	227	140	147
家族関係・人間関係に関する支援	238	240	246	164	178
生活技術に関する支援	414	448	365	77	62
不安の解消・情緒安定に関する支援	108	79	68	59	68
就労に関する支援	188	107	112	42	40
家計・経済に関する支援	84	48	79	16	43
虐待に関する支援	25	18	16	6	18
権利擁護に関する支援	2	19	2	0	1
その他	807	929	572	488	512
計	10,208	9,497	8,610	7,077	6,999

(4) 相談者の内訳(重複あり)

(単位:人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
家族・親族	2,948	2,639	2,728	2,877	2,644
本人	3,291	3,207	2,670	2,658	2,764
サービス事業者	1,775	1,544	1,213	1,264	1,084
その他関係機関	595	570	559	574	554
医療機関	425	318	280	283	295
学校・保育所等	95	122	70	84	62
就労先事業所	0	0	1	0	1
民生委員	3	1	0	0	0
自治会・近隣者	28	22	17	14	10
その他	451	309	267	463	434
計	9,611	8,732	7,805	8,217	7,848

3 聴覚障害者等への支援

(1) 聴覚言語相談員・手話通訳士等による生活支援

聴覚障害者の生活全般にわたる各種相談や手話通訳依頼に応じるとともに、聴覚と視覚等の重複障害を持つ障害者に対し、視覚障害リハビリテーション指導員と共に関わり、社会生活能力の向上を図った。

(単位：人)

年 度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
ピア・カウンセリング (聴覚言語相談員)	2,229	2,029	2,236	1,876	1,841

(2) 難聴者・中途失聴者向け手話講座

令和5年度は、天候に左右されることなく計画どおりに開催できた。

講座では、手話の学習のみならず障害の受容を促すための意見交換や福祉制度等に関する情報提供も行ったため、講座受講を契機に日常生活用具給付申請、各種行事やグループ活動への参加につながった。

《難聴者・中途失聴者向け手話講座実施状況》

(単位：人)

年 度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
参加者数	398	193	227	347	365

(3) 聴覚障害者生活支援事業

自宅にこもりがちな聴覚障害者を対象に、手話を使ったスポーツレクリエーションやゲーム等を主とした交流会を実施。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、短縮していた開催時間を通常の開催時間に戻して行うことができた。

これまでひきこもりがちだった聴覚障害者がこの事業への参加を契機に介護保険サービスの利用を始め、社会参加が広がったケースもある等、参加者の定着と広がりがみられた。新型コロナウイルス感染症により長期間外出や活動が制限され、筋力や認知面の低下などが表れた参加者もいた。そのような場合、関係機関と連携し個別に対応を行った。

《聴覚障害者生活支援事業実施状況》

(単位：人)

年 度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
参加者数	214	105	131	182	218
ボランティア	106	67	87	117	119
計	320	172	218	299	337

(4) 視覚・聴覚重複障害者生活支援事業

視覚・聴覚の重複障害により、自宅にひきこもりがちとなった障害者を対象に、見えにくい・聞こえにくい方でも楽しめるゲーム等を主とした交流会を実施。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、短縮していた開催時間を通常の開催時間に戻して行うことができた。また、1月は積雪のため中止した。

事業中止の期間に、筋力低下やコミュニケーション不足による認知面の低下が顕著に表れた参加者に対しては、個別の支援を継続している。

《視覚・聴覚重複障害者生活支援事業実施状況》

(単位：人)

年 度	R 元年度	R 2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
参加者数	39	21	19	29	37
ボランティア	112	62	54	84	115
計	151	83	73	113	152

4 視覚障害者等への支援

視覚障害リハビリテーション指導員を配置し、視覚障害者（見えづらい方やその家族含む）への相談・支援に努めた。

また関係機関と連携して支援することで、当事者の生活の質の向上や社会参加につなげた。

機能訓練においては歩行訓練（主に白杖と保有感覚を活用する訓練）、日常の困りごと解消のための訓練や点字訓練等、個々のニーズに応じた訓練を行うことで、社会生活能力の向上を図った。

《年度別相談支援実績》

(単位：人)

	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
相談・交流会等	941	763	389	387	389
視覚リハ訓練・点字訓練等	195	203	109	221	255
機能訓練（歩行訓練等）	137	131	35	11	45
計	1,273	1097	533	619	689

(参 考)

※「視覚リハ訓練・点字訓練等」とは、1 時間程度の個別対応で機能訓練と同等内容（白杖の使い方指導・短期間の歩行訓練・点字訓練・日常生活動作訓練等）である。

※R4 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に加えて担当職員の勤務縮小の影響もあり、減少した状態が続いている。

5 管理体制

相談支援事業所管理者	馬 渡 仁 美
相談支援事業所相談支援専門員	廣 岩 秀 徳

【総 論】

改めて当センターの相談状況を見てみると、毎年同様な傾向を示していることがわかる。主に身体障害（視覚、聴覚を含む）の方と幼児・児童をもつ家族からの相談が多い。当センター事業に対する期待が大きいといえる。今後も福祉サービスや生活問題など併せて相談ができる機能の充実や拡大を目指していくことが必要と思われる。

VI 自立訓練（機能訓練）事業

障害者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、当該障害者の身体その他の状況及びその置かれた環境を踏まえて、それぞれに適した訓練等を行った。

1 契約状況

① 契約者数 (単位：人) (※再契約)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
新規	8	11	15(※1含)	7(※2含)	9
終了	11	9	14	7	12
年度末契約者数	14	16	17	17	14

② 疾患別延べ契約者数 (単位：人・%)

疾患（障害）名	計	構成比(%)
脳血管障害・頭部外傷後遺症：身体症状を主とするもの(片麻痺など)	8	30.7%
〃：高次脳機能障害、聴覚障害などを重複	2	7.7%
神経・筋変性疾患(筋ジストロフィー含む)	6	23.1%
脳性麻痺	3	11.5%
頸髄損傷・脊髄損傷(髄内腫瘍含む)	2	7.7%
整形疾患	3	11.5%
視覚障害	1	3.9%
精神疾患	1	3.9%
合計	26	100%

③ 年齢別延べ契約者数 (単位：人・%)

	男性	女性	計	構成比(%)
19～29歳	1	1	2	7.7%
30～39歳	1	4	5	19.2%
40～49歳	2	1	3	11.5%
50～59歳	5	4	9	34.6%
60～64歳	3	4	7	27.0%
65歳以上	0	0	0	0%
合計	12	14	26	100%

2 実施内容

(1) 機能訓練

身体機能、生活能力等の維持・向上を図るため、理学療法士、視覚障害リハビリテーション指導員による機能訓練等を行った。また、各専門職による個別の訓練に加え、集団体操やプール、スポーツレクリエーションなど幅の広いメニューを提供した。

《職種別訓練件数》 (単位：人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
理学療法士	844	787	1,131	1,219	1,075
作業療法士	0	2	0	0	0
言語聴覚士	0	0	0	0	0
視覚リハ指導員	137	131	35	11	45
合計	981	920	1,166	1,230	1,120
一日平均利用者数	4.1	3.8	4.9	5.1	4.6

※ 視覚リハ指導員の訓練回数は、相談支援事業と重複して記載

(2) 健康管理

看護師による血圧測定のほか、健康維持・管理のための必要な支援を行った。

(3) 相談支援

利用者及びその家族が抱えている課題に対する相談・助言等を、ソーシャルワーカーや相談員により行った。また、必要に応じて関係機関との連絡調整等を行った。

ケースの計画相談を担当している相談支援事業所から招集される担当者会議へは担当セラピストと共に積極的に参加し、ケースに関わる事業所間の連携強化に努めている。

(4) 送迎サービス

可能な限り利用者の希望に沿うよう、常時2台の送迎車を稼働して対応している。現在、北は三重地区、東は現川地区、南は香焼地区など、遠方の利用者への対応も行っている。

(R5年度送迎サービス実施延べ人数：2044人※R4年度2,290人)

(5) 屋外活動

日頃、外出の機会が少ない利用者と市内の観光地やショッピングモール等に出かけていくプログラム。精神面でのリフレッシュ効果が得られるだけでなく、公共交通機関の利用や買い物体験など社会リハビリテーションとしてもニーズが高い活動となっている。利用者からは毎回好評を得ており、今後も引き続き、当事業の主要プログラムの一つとして計画実施していく。

<参加延人数：41人>

4月17日(月)	唐八景	11月7日(火)	松枝埠頭・旧香港上海銀行
5月17日(水)	稲佐山	12月18日(月)	ペンギン水族館
6月30日(金)	長崎市役所新庁舎	1月12日(金)	初詣護国神社・Mr マックス
9月20日(水)	恐竜博物館	2月15日(木)	ランタンフェスティバル

(6) クッキング

コロナ禍には中止していたが、今年度より2～3人の小グループで再開を試みた。

5月24日	ホットケーキ	1月22日	茶碗蒸し
5月26日	茶碗蒸し	2月6日	スコーン
9月4日	ポテトサラダ・ピザトースト	2月26日	たい焼き
10月20日	簡単ポテトサラダ	3月25日	茶碗蒸し・スコーン
12月13日	スコーン		

3 管理体制

自立訓練（機能訓練）事業管理者

穂山富太郎

自立訓練（機能訓練）事業サービス管理責任者

吉村優子

【総論】

今年度、支給期間満了によって終了を迎えた利用者が多かったことから、年度後半の実績低下が目立った。相談支援事業所などの関係機関へ事業案内を送付したり、相談員が市内の主要な医療機関を直接訪問し当事業の紹介を行ったが、終了者数を上回る新規契約者数を得ることが難しかった。しかし今回の直接訪問によって、医療機関における障害福祉サービスについての情報量が圧倒的に不足していることが明確になり、継続的な周知活動の必要性が感じられた。

当事業は標準利用期間が1年半という有期限のサービスであるからこそ、訓練を通して、利用者自身に何らかの自立に向けた身体的・精神的変化また生活の変化が起きることを目標に支援にあたっている。特に「復職・就労」については、利用者からもニーズは高く、今後も担当の相談支援専門員や就労支援相談員と連携をとりながら、A型及びB型就労継続支援事業所へのスムーズな移行はもとより、最終的には一般就労が実現できるよう支援を行っていく。

Ⅶ 障害者就労支援相談所運営事業

障害者の就労に関する支援を行い、障害者の自立と社会参加の促進に努めた。
また、就労のための相談支援、雇用準備のための支援、情報提供などを実施した。

1 事業内容

- (1) 就労相談：発達障害者を含む障害者の就労に関する相談
- (2) 就労支援：就労面接や生活全般の助言、就職先の定期訪問、定着指導
- (3) 情報の収集及び提供：求人情報の把握と提供、実習情報の収集と提供
- (4) 関係機関との連携：ハローワークへの紹介アシスト、求人・求職情報の共有による連携、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター及び就労支援施設との連携

2 就労支援相談の状況

- (1) 障害別新規登録者数 (単位：人)

障害区分	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	その他	合計
新規登録者	3	2	5	3	0	13

- (2) 主な就労相談支援状況

	新規登録者	有効登録者	来訪相談	電話相談	紹介	就職	施設入所
R元年度	21人	84人	274件	60件	15件	18人	7人
R2年度	19人	81人	223件	67件	10件	6人	9人
R3年度	15人	82人	199件	82件	4件	4人	6人
R4年度	15人	88人	163件	79件	8件	6人	6人
R5年度	13人	89人	133件	115件	13件	5人	7人

※R4年度就職数6人の内、引き続いての就労者数は6人（令和6年3月31日現在）

- (3) 相談・訪問件数等の推移 (単位：件)

	室内業務					室外業務				合計
	来訪相談	電話相談	関係機関 打合せ	その他	計	施設訪問	企業訪問	その他	計	
R元年度	274	60	49	1,581	1,964	39	13	68	120	2,084
R2年度	223	67	76	1,542	1,908	46	1	68	115	2,023
R3年度	199	82	56	1,521	1,858	31	2	5	38	1,896
R4年度	163	79	56	1,555	1,853	29	2	8	39	1,892
R5年度	133	115	120	1,695	2,063	86	4	32	122	2,185

※室内業務「その他」は、実習・求人情報提供、施設定着確認等。室外業務「その他」は、関係機関訪問等

※室外業務「その他」は、ハローワークの障害者対象求人情報の入手方法が令和3年度より郵送となったため、ハローワーク長崎への訪問数が大幅に減少している

【総論】

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症への対応が緩和されたが、障害のある方々には自発的に新たに動きだすことへの躊躇が未だに見受けられ、電話相談はあるものの、新規登録や来訪相談の増加は見られず、一般就職で微減、施設入所で微増となった。

今後については、昨年度同様、施設や関係機関等との連携をさらに強化し、多くの方の相談、支援をより効果的に実施していく。

Ⅷ 児童発達支援センター「さくらんぼ園」単独通園

保育・療育計画、行事計画に沿って事業を実施した。

1 療育方針

心身の発達に遅れのある児童を早期療育することで、個々の成長と発達状況に応じた様々な遊びを経験させ、認知・行動・感覚の発達を促し、健康な身体づくり、基本的生活習慣の確立とコミュニケーション能力の育成等を図った。

家族との連携を密にし、児童の発達状況に合った療育をするとともに、関係機関と連携を図り、質の高いサービス提供と早期療育システムの確立に努めた。

2 日 課

8:50	10:00	10:40	11:50	13:00	14:30	15:40
バス内指導	自由遊び 日常生活指導	朝のお集まり 設定療育	給食 食事指導 歯磨き指導	自由遊び 設定療育 日常生活指導 帰りのお集まり		バス内指導

3 療育内容

障害の程度や発達段階、年齢等を考慮したクラス編成による集団での療育を実施した。また設定療育を毎日行い、月3回の頻度で親子療育（主にプール活動）を実施した。

(1) 療育内容とねらい

- ① 音楽遊び
音やリズムにより、心身ともにリラックスできる楽しい雰囲気の中で、児童の興味や発声、動きなどを引き出す。
- ② 運動遊び
身体全体を使うことで運動機能を高め、ボディイメージを育む。
- ③ 触覚・感覚遊び
様々な素材に触れる経験をさせ、情緒の安定と感覚過敏の軽減を図り、手先の巧緻性を高める。
- ④ 認知課題遊び
カードや模型、実物などをマッチングすることで、物への関心を高めさせるとともに弁別力を高め、認知の力を高める。
- ⑤ 絵本の読みきかせ、手遊び、ペープサート等
ことばの理解を高め、傾聴態度を育てる。
- ⑥ 手先を使った遊び
操作性を高め、集中力を身につける。指示や説明を聞き、ことばの理解を高める。
- ⑦ 戸外遊び
公道を散歩したり、公共施設の遊具で遊んだりすることで、交通ルールや公共のマナーを守ることを体験し、身につける。
- ⑧ ゲーム
簡単なルールを守ってゲームに参加し社会性を身につける。
- ⑨ ふれあい遊び
マッサージや手遊び等を行い、やりとりする相手を意識することで人への興味・関心を高める

4 クラス編成

ぱんだ組 10人(男児10人、女児0人)

自閉スペクトラム症児を中心とした主に年長・年中児童のクラス

うさぎ組 10人(男児8人、女児2人)

ダウン症児や自閉スペクトラム症児など障害や発達の種類、年齢が様々な児童が在籍するクラス

ぞう組 11人(男児7人、女児4人)

自閉スペクトラム症児を中心とした発達の程度が様々な主に年中児童が在籍するクラス

5 給食

児童の摂食の状態に合わせた調理に努め、栄養バランスのとれた食事を提供し、併せて食事面での自立を図るための指導を行った。また、保護者を対象に給食試食会を実施した(年3回)。

災害時に備え、発達に応じた災害食を摂取できるように計画・実践を行った。

① 給食

- 給与栄養目標量を満たした給食の提供
- 偏食の改善や食べる意欲を高めるための給食の提供
- 嗜好、季節感、衛生面を考慮した給食の提供
- 咀嚼能力、嚥下能力に応じた給食の提供
- 災害・非常時における新奇場面で食事が摂れる経験をするための給食の提供

② 特別食

- 咀嚼機能や嚥下機能の発達に応じた個別の食事形態にして提供した。
粗刻み食(16人) ⇒ 主食の麺及び主菜・副菜を咀嚼能力に合わせて刻んで提供
ムース追加食(3人) ⇒ 刻み食+ムース(2人)と極小刻み食+ムース(1人)とムースを追加することで嚥下を促すようにした。
- 咀嚼機能を高めるための対応(21人)
⇒ 厚みのある肉を1cm角やスティック状のカット、果物の薄切りスライス。
- 手指の機能を高めるための対応(4人)
⇒ 自助器の使用(皿・斜皿・スプーン等)。自食を促すため麺や果物を一人ひとりに応じカット。
- アレルギー除去食対応(1人)
⇒ 卵・マカダミアナッツアレルギー児が食可能な献立作成。
- 食べ方・マナーを身につけるための対応(6人)
⇒ スプーンやUコップを使った自食のための自助器の使用。正しい所作を促すための声かけ。他人の食事と自分の食事を区別するためにトレーの色を変えた。
- 偏食への対応食(23人)
⇒ 苦手な食材や料理を食べられるようにするために食器を別にして提供し、調理形態を増やして対応した。
- 就園・就学先への情報の提供(11人)
⇒ 特別食について情報提供書「もぐもぐ」を作成し、就園・就学先に提出した。
- 病状や体調に合わせた給食の提供(1人)
⇒ 病態に基づき喫食量の調整や手足の低体温の症状に合わせた給食の提供

6 年間行事

① 主な行事

実施月	行事名	実施月	行事名
4月	始園式	11月	歯科健診
5月	こども日の集い、春の遠足、歯科健診	12月	内科健診、クリスマス会
6月	保育参観、内科健診	1月	消防署見学
7月	夏まつり	2月	豆まき
10月	運動会、秋の遠足	3月	ひな祭り、卒園式、ありがとうの集い

※毎月：避難訓練、誕生会を実施

交流保育

毎年、交流保育を稲佐保育園、中央保育所、山里平和保育園の3か園と計画・実施していたが、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ、アデノウイルス等の流行のため、感染防止、予防のため中止とした。

7 在籍児の利用状況

(1) 年齢別及び障害別内訳

(年度末現在/単位：人)

年 齢	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
自閉スペクトラム症(疑い含む)		2	9	1	12
自閉スペクトラム症(疑い含む)+精神発達遅滞				1	1
自閉スペクトラム症+知的障害(軽度)			4	1	5
自閉スペクトラム症+知的障害(中度)	1	2		1	4
自閉スペクトラム症+知的障害(重度)			2		2
自閉スペクトラム症+注意欠如・多動症(疑い含む)				2	2
知的な遅れ				1	1
精神発達遅滞			1		1
ダウン症候群				1	1
言語発達遅滞					0
水頭症			1		1
脳梁形成不全症+大脳皮質形成異常症+焦点性てんかん		1			1
合 計	1	5	17	8	31

(2) 卒・退園児、就学・就園先

就園・就学先	人 数
長崎県立鶴南特別支援学校 本校	3
長崎県立鶴南特別支援学校 時津分校	3
長崎大学教育学部附属特別支援学校	1
長崎市立小江原小学校 特別支援学級	1
認定こども園鳴鼓幼稚園	2
みやま幼稚園	1
他事業所	2
計	13

(3) 園児の出席状況

(単位：日・人・%)

	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
開所日数(日)	233	234	234	227	232
延べ在籍児数①	7,283	7,173	7,386	6,187	7,365
延べ出席児数②	5,881	5,713	5,647	4,806	5,377
出席率※(%)	80.7	79.6	76.5	77.6	73.0

※出席率(%) = 延べ出席児数② ÷ 延べ在籍児数① × 100

8 専門スタッフとの連携

児童にけいれん発作や体調の悪化等が生じたときは、速やかに診療所に連絡を取り、医師・看護師による指示のもと対応した。

また、療育支援会議に参加し医師やセラピストと発達状況や療育方針について情報を交換した。各クラスとも毎月、担当セラピストと合同勉強会を行い、支援目標や療育内容について指導・助言を得た。

9 家族支援

保護者向けの勉強会である家族教室(年 12 回実施)では、当センターの職員だけでなく、講座後の保護者アンケートを参考にして、外部講師やペアレントメンターを招いて幅広いテーマで講座を開催するように努め、保護者が気軽に参加できるように対面とオンラインの両方で実施した。ペアレントトレーニングも、希望者を募り継続して実施している。

《家族教室の開催状況》

日程	テーマ・主な内容	担 当
4月	新年度を迎えて&クラス懇談会	園長、担任(保育士・児童指導員)
5月	さくらんぼ園の給食ができあがるまで ～食事やおやつ、好き嫌いのこと～	管理栄養士
6月	親子遊びや家庭の中で育つ大切なこと ～コミュニケーションから社会性まで～	長崎大学教授 岩永竜一郎先生
7月	暮らしの中でことばを育てるために ～話し始めの頃の遊びやかかわりについて～	言語聴覚士
8月	先輩ママの体験談&座談会	卒園児保護者
9月	暮らしの中で会話(ことばのやりとり)を育てるために ～この時期の遊びやかかわり方について～	言語聴覚士
10月	知っておきたい福祉サービスとお金のこと ～福祉サービス・手帳・手当・年金のことなど～	社会福祉士
11月	さくらんぼ園の療育について&クラス懇談会	担任(保育士・児童指導員)
12月	先輩ママの体験談&座談会	卒園児保護者
1月	ゲームとスマホ、幼児期から上手に付き合おう	活水女子大学 福井謙一郎先生
2月	ペアレントメンターさんのお話&座談会	ペアレントメンター
3月	一年をふりかえって(クラス懇談会)	園長、担任(保育士、児童指導員)

10 就学支援

保護者が就学先を選択しやすいように学校公開や体験入学等についての情報提供を行った。

また就学後も一貫した支援が受けられるよう、就学先に情報提供書を提出し、就学先からの来園を受け入れ直接情報提供や意見交換も行った。

(単位：人)

就 学 先	件 数			
	電 話	訪 問	来 園	情報提供書
長崎県立鶴南特別支援学校 本校			1	3
長崎県立鶴南特別支援学校 時津分校				3
長崎大学教育学部附属特別支援学校			1	1
長崎市立小江原小学校 特別支援学級				1
合 計			2	8

11 地域との連携

就園前や就園後(並行通園も含む)において、児童の発達状況に応じた課題設定や環境整備、対応法などの情報交換を行った。

(単位：人)

連 携 先	件 数				
	電 話	来 園	訪 問	個別支援計画	情報提供書
いなさ幼稚園	-	-	4	4	1
認定こども園鳴鼓幼稚園	-	-	1	2	2
みやま幼稚園	-	-		1	1
認定こども園長崎小鳩幼稚園	-	-	1	1	-
山里平和保育園	-	-	2	2	-
合 計	-	-	8	10	4

12 研修(施設内研修)

①外部講師による研修会

日程	内 容	講 師
7/19	医療的ケア児に対する支援の現状と課題	長崎県医療的ケア児支援センターつなぐコーディネーター 井村弘子先生
9/20	不登校について①(発達障害と不登校)	長崎大学教育学部人間発達講座教授 吉田ゆり先生
10/18	不登校について②	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授 岩永竜一郎先生
10/24	虐待防止について(身体拘束・行動制限の廃止と支援の質の向上)	社会福祉法人ことの海会 中山孝一先生
12/27	姿育体操について	長崎市立畝刈小学校 教諭 鴨川祐子

②センター講師による研修会

日 程	内 容	講 師
5/24	プール活動について(基礎と実技)	川崎保育士
6/29	教材作りについて	職員全員
8/30	検査結果からわかるこどもの困りごと(OT編)	江頭作業療法士
11/29	知っておきたい福祉サービスとお金のこと	池田社会福祉士
1/24	園内技術研修報告	職員全員
2/14	発達症に対する薬物治療について	松崎小児科医
2/21	児童福祉施設等の食事の提供に関する研修	中村管理栄養士(伝達研修)
	特定給食施設等の調理従事者研修会	中村管理栄養士(伝達研修)
	地域療育従事者研修	鹿谷・春本保育士(伝達研修)

	長崎県サービス管理責任者等基礎研修	諸熊保育士（伝達研修）
	長崎県サービス管理責任者等実践研修	芦塚・中村保育士（伝達研修）
	長崎県相談支援従事者初任研修	駒田保育士（伝達研修）
	長崎県水泳プール安全管理講習会	金柿保育士（伝達研修）
	令和5年長崎県障害者虐待防止・権利擁護研修	金柿保育士（伝達研修）
	こどもの高次機能障害～特性の理解と向き合い方	芦塚・中村保育士（伝達研修）
	災害時要配慮者支援ボランティアリーダー養成講座	中村管理栄養士、金柿・諸熊・芦塚保育士
	施設見学報告 長崎大学教育学部附属特別支援学校	長岡児童指導員、駒田・芦塚・中村保育士
	施設見学報告 児童発達支援センターげんき	芦塚・北野保育士
3/27	教材完成発表会（製作過程・実践・課題等）	職員全員

③実習生・見学者等の受入れ

実習生	純心大学人文学科こども教育保育学科実習	2人（8/17～8/30） 内1人病欠有（8/17～9/1）
	活水女子大学健康生活学部子ども学科実習	2人（11/13～11/27）
見学	児童発達支援センターげんき	2人（11/7）
	長崎県公立学校教職員研修（社会体験研修）	1人（8/17,8/18,8/21）
	長与町こども政策課ひばり学級	4人（7/18,8/22）

13 管理体制

児童発達支援センター「さくらんぼ園」管理者	増田ゆかり
児童発達支援センター「さくらんぼ園」児童発達支援管理責任者（専任）	川崎和枝
	（兼任） 長岡美紗
	金柿雄太

【総論】

- 今年度は、並行通園児や並行利用児、年度途中から就園して並行通園となる児童が多く（31名中13名）、これらの児童は週2～3回の利用になるため、延べ在籍児数は増加しても延べ利用児数が減少する理由の一つとなった。就労している保護者が増えていることや、制度改正に伴うインクルージョンに向けた取り組みが進んでいくことなどを踏まえるとこの傾向は続くと考えられる。児童が地域社会で生活するための移行支援の充実を図りつつ、実績を確保することが今後の課題である。
- 就園・就学先及び相談支援事業等との連携については、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、コロナ禍前と同様、電話や文書だけでなく訪問や来訪で情報交換や意見交換ができた。また、療育・給食情報提供書（「にこにこ」「もぐもぐ」）による情報提供は、今後も継続したい。

- 当園には、常時の見守りや介助が必要な肢体不自由児や、安全確保のため個別の対応が必要な発達障害や知的障害などの児童が在籍している。年齢や発達状況は様々で、一人ひとりに適切な保育・療育を行うためには、職員が共通認識をもち、研修・研鑽に努める必要がある。今年は、医療的ケア児の受け入れに向けて「医療的ケア児の支援について」と、卒園児の保護者から相談が増えてきた「学童期の支援（不登校）について」の研修を企画し実施した。また年間を通して教材作りや活動プログラム作成について全職員で取り組むことができ、ティーチャートレーニングと合わせて継続していきたい。

- 安全計画を策定し、より一層の安心安全の確保に努めた。通園バスの運行については、置き去り防止ブザーを設置し、車内点検や確実な点呼について体制を整備した。併せて、ヒヤリハットの報告と報告書作成、職員への周知を徹底するなど事故防止に努めた。
今後も引き続き児童が安心安全に過ごせる環境づくりを行い十分な感染対策を行いながら療育支援の充実に努めたい。

②児童発達支援センター「さくらんぼ園」 親子通園

児童の発達状況と障害の程度を考慮したグループ分け（14グループ編成）し、それぞれに対する発達支援に努めた。セラピストは、年長児グループを中心に関わり、保護者支援としてセラピストによる就学支援と保護者講座等を実施した。

1 グループ編成

	月	火	水	木	金
午前	Q とまと	A みかん	E すいか	C ぶどう	H もも
	ADHD (2～3歳児)	自閉スペクトラム症 (1～2歳児)	発達障害 (3～4才児)	自閉スペクトラム症 (2～3才児)	自閉スペクトラム症 (2～3才児)
	R いちご	G めろん		D ばなな	障害児等療育支援事業
	自閉スペクトラム症 (1～2歳児)	自閉スペクトラム症 (1～2歳児)		精神発達遅滞 (1～4歳児)	くま組 精神運動発達遅滞 脳性まひ他(未歩行) (1～5歳児)
午後	N たんぼぼ	I (第1・3) さくら	F りんご	M こすもす	J ひまわり 発達障害 知的障害 (年長児)
	発達障害 (年中・年長児)	L (第2・4) ちゅーりっぷ 発達障害 知的障害 (年長児)	発達障害 知的障害 (3～4歳児)	発達障害 知的障害 (年中・年長児)	

2 療育内容

① A・G・Rグループ

自閉スペクトラム症とその疑いのある児を対象に超早期療育を実施し、保育者が1対1で関わり、遊びを通して対人関係の力を身につけることを目的とした。

作業療法士・言語聴覚士は専門的な視点で関わり、家庭での親子の関わりについても助言を行った。

② C・H・Qグループ

A・G・Rグループの終了後も継続して自由遊び場面で対人関係を学び、それに加えて短時間の設定療育を取り入れながら小集団療育に移行するための準備に取り組んだ。

③ Dグループ

着脱や排泄など基本的な生活習慣の自立を目指した働きかけを行い、対人関係の力を身につけ、運動能力の向上を目的とした様々な遊びや活動を行った。

④ Eグループ

基本的な生活習慣の自立と、自由遊びと短時間の設定課題を通して、やりとりのルールや簡単な指示に沿って行動することなど集団に必要なスキルを身につけることに取り組んだ。

⑤ Fグループ

基本的な生活習慣の確立と、簡単なルールのある遊びや設定課題を通して、社会性を高め就園に向けて集団生活に必要な力を身につけることに取り組んだ。

⑥ I・J・Lグループ

集団生活に必要なスキルを身につけること、行動や感情のコントロールができるようになること、自分の気持ちを言葉で伝え、人と良い関わりができるようになる力を育てることなどに取り組んだ。

セラピストはそれぞれの専門的な立場から助言指導を行い、ミニ保護者講座を実施した。保育者は活動の目的やねらいを保護者に具体的に説明し、就園先や家庭での悩みや心配事に対応するために懇談会を実施した。

⑦ M・Nグループ

運動能力の向上や社会性を高めること、状況に応じたことばの表現の獲得などを目的に、小集団で行うゲームや製作、様々な設定課題に取り組んだ。また活動を通して成功体験を積み自信が持てるようにした。懇談会では、保護者同士、保育者の助言も参考にしながら悩みや心配ごとについて意見交換を行った。

A・G：作業療法士、言語聴覚士、保育士、児童指導員

E・H：作業療法士、保育士、児童指導員

I：臨床心理士、保育士、児童指導員

J：作業療法士、保育士、児童指導員

L：言語聴覚士、保育士、児童指導員

Q：作業療法士・保育士・児童指導員

R：作業療法士・臨床心理士・保育士、児童指導員

3 年間行事等

運動会やクリスマス会、節分等の季節の行事を実施し、毎月、避難訓練を実施した。運動会については新型コロナ感染症やインフルエンザ等の感染予防・防止のため単独との合同では実施せず、期間を設定しグループ毎に実施した。

4 利用状況

(1) 年齢別・障害別内訳（年度末現在）

（単位：人）

年 齢	0才児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合 計
精神発達遅滞			1	1	1		3
自閉スペクトラム症			6	5	8	1	20
自閉スペクトラム症（疑い）		1	9	3	3	5	21
注意欠如・多動症				1	2	1	4
注意欠如・多動症（疑い）			1	2	1	1	5
言語発達遅滞			1	4		1	6
その他		2	1	1	1		5
合 計		3	19	17	16	19	74

(2) グループ別登録児数（年度末現在）

（単位：人）

グループ	A	C	D	E	F	G	H	
登録児数	3	7	5	6	7	2	7	
グループ	I	J	L	M	N	Q	R	計
登録児数	8	5	5	5	8	3	3	74

※ Kグループは令和2年度からJグループに統合※ Bグループは、障害児等療育支援事業「くま組」として実施。

※ O Pグループは I Lグループに統合。

5 進路状況（契約終了後の処遇状況）

就 園	外来療育	1人
	療育終了	5人
他の事業所		2人
その他（転居等）		4人
合 計		12人

6 園児の出席状況

(単位：日・グループ・人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
開所日数	234	234	234	229	234
グループ数	16	15	15	15	14
在籍実人数	111	94	81	73	74
延べ出席児数	2,597	2,359	1,997	1,606	1,932
1日平均人数	11.1	10.1	8.5	7.0	8.3

7 保護者支援

すべての保護者を対象に保護者講座を実施し、療育支援や育児支援についての情報提供を行った。懇談会はグループ毎に実施していたが、今年はグループの枠を超えて実施し、活動時には会う機会のない保護者同志の交流と情報交換ができた。

① 全保護者対象

	内 容	講 師
4/26	「親子療育 きりん組ってどんなところ？」	保育士
7/1	「幼児期の親子関係について」	作業療法士
9/12	「福祉の制度とサービスについて」	社会福祉士
11/22	「きりん組保護者座談会」	
1/17	「先輩ママからのお話」	きりん組卒園児保護者

② グループの保護者対象

	Jひまわり：(年長児) 作業療法士	I：ちゅーりっぷ(年長児) 言語聴覚士
5月	【ミニ講座】前庭感覚について ペアレント・トレーニング①	【懇談会】自己紹介・お子様の好きなこと
6月	【ミニ講座】触覚について ペアレント・トレーニング②③	【ミニ講座】就学の流れ・就学相談について
7月	【ミニ講座】固有感覚について ペアレント・トレーニング④	【懇談会】夏休みの過ごし方
8月	【ミニ講座】発達の原則 ペアレント・トレーニング⑤	【ミニ講座】語彙を増やそう
9月	【ミニ講座】発達の段階 ペアレント・トレーニング⑥⑦	【懇談会】小学生になる前に身につけておきたいこと
10月	【ミニ講座】6歳児について ペアレント・トレーニング	【ミニ講座】文字の読み書きの力の発達
11月	【懇談会】最近頑張っていること	【懇談会】交流会
12月	【懇談会】小学生になる前に身につけておきたいこと	【ミニ講座】お手伝いにチャレンジ ～お手伝いの中でことばを育てよう～
1月	【懇談会】1年間を振り返って	【懇談会】1年間を振り返って

※ 4月はアセスメントやモニタリング等、2・3月は情報提供書「にこにこ」の説明等の個人面談を実施。

【総論】

親子通園では、児童それぞれの特性に合った支援を行うために、関係機関からの情報をもとにグループ編成を行い、支援目標及び支援内容を明確にするなど、児童それぞれの発達状況と発達特性に合わせた療育方針とした。

個別支援計画の説明や保護者の意向の確認、モニタリング等を定期的に行うだけでなく、保護者の不安や心配事に丁寧に対応するために随時個人面談を実施した。また、年長児グループは、新規利用児が多く頻度も月2回であるため、保護者講座や懇談会、情報提供書の作成など保護者支援を充実さ

せ、就学先への移行が円滑にいくように配慮した。

就園先や並行通園先には、保護者の同意を得て親子通園（きりん組）での支援内容や活動の様子について、情報提供書や電話、訪問等により情報提供と意見交換を行い一層連携が深まるように努めた。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、前年度と比べると出席児数は増加しているが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の他にもインフルエンザやアデノウイルスなどの流行がみられたため、コロナ禍前の出席児数に戻ることなかった。今後も様々な感染症等の予防に努めながら療育支援を実施したい。

IX 診療所

保険診療機関として、整形外科・リハビリ科、小児科、精神科（月1回）の外来診療を行っている。発達障害児(疑いも含む)に対する診療・評価・薬物治療を行うほか、診察・評価結果に基づき適切な訓練・療育を行った。また、長崎市内の医療・療育機関スタッフ、教師等を対象に発達障害に関する知識と対応への技術向上、普及を目的とする研修会を実施した。精神科外来においては、強度行動障害や精神的に不安な状態についての判断や相談にも応じた。

1 診療数

(単位：人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
整形外科	1,294	1,096	1,067	1,280	1,187
小児科	7,850	7,793	8,459	7,920	8,098
精神科	51	55	63	75	92
計	9,195	8,944	9,589	9,275	9,377

(1) 整形外科・リハビリ科

① 新患者数

(単位：人)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
新患者数	68	61	57	56	55

② 新患の年齢別・障害別内訳

(単位：人)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小学生	中・高	19歳以上	合計
脳性麻痺	1	2	1	0	0	0	0	2	0	2	8
運動発達遅滞、または障害	5	9	2	0	3	1	0	6	0	0	26
精神運動発達障害	1	5	0	1	0	0	0	0	0	0	7
精神発達遅滞	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳血管障害(片麻痺)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
外傷疾病後遺症	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6	7
関節症などその他障害	0	0	1	0	0	2	0	0	0	2	5
計	7	16	4	1	3	3	0	9	0	12	55

※新規患者のうち、0歳・1歳からの早期療育開始児が約41.8%を占めている。

※国立病院機構長崎病院と連携したボトックス治療を小児29人(前年度30人)、成人19人(前年度25人)、計48人(前年度55人)に実施した。併せて、脳性麻痺児に対して痙性抑制キャストを述べ5人行った。

※重症心身障害児は早期の介入が重要なため、必要に応じて月に4回、集中的に運動療法を行っている。

※月に2回のインラインスケート&ラグビー教室で、立位バランスの強化、集中力の向上、およびコミュニケーションや社会性の向上を図った。整形患児と発達障害の子どもが対象。次年度からは療育等支援に移行。

③ 紹介元機関

(単位：人)

長崎大学病院	16	乳幼児健診(こども健康課)	1	計 55
その他の病院	18	センター(A型センター)	1	
センター内小児科	12	直接相談	7	

(2) 小児科・リハビリ科

① 新患数

(単位：人)

	R 元年度	R 2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
新 患 数	546	446	482	540	522

② 新患の年齢別・障害別内訳

(単位：人)

	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	小学生	中学生	高校生	高校生 以上	合計
精神発達遅滞	0	0	3	8	6	8	0	4	0	0	0	29
運動発達遅滞・障害	0	0	5	3	1	0	0	0	0	0	0	9
自閉スペクトラム症	0	3	25	34	34	30	6	15	2	0	0	149
注意欠如・多動症	0	0	0	22	66	94	31	54	3	0	0	270
言語発達遅滞	0	1	19	16	4	2	0	1	0	0	0	43
構音障害	0	0	0	1	4	3	1	0	0	0	0	9
吃音	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
限局性学習症	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5
適応障害	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
定常発達	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	1	1	1	0	1	0	1	6
計	0	4	53	84	116	138	40	79	6	0	2	522

※全体の 83% (前年度 82%) が未就学児、17% (前年度 18%) が就学児で、前年同様の割合。

※診断名では注意欠如・多動症 (AD/HD) が前年同様、ほぼ半数、学童では約 6 割となっている。

③ 紹介元機関

(単位：人)

乳幼児健診 (こども健康課)	222
直接相談	76
センター巡回	59
その他の療育施設	45
その他の病院	33
小、中学校・教育機関	32
幼稚園・保育園	28
長崎大学病院	20
センター内整形外科	5
行政機関	2
計	522

※例年同様、紹介元は乳幼児健診からの紹介が最も多く全体の 43%、主訴は言葉の遅れが最も多く 30%となっている。

④ 主訴

(単位：人)

言葉の遅れ	158
落ち着きのなさ	83
かんしゃく・感情コントロール	77
不注意・注意力散漫	41
対人関係・社会性の遅れ	39
発音不明瞭、吃音	34
学習面の遅れ	27
こだわり	16
発達全般の遅れ	14
運動面の遅れ	9
場面緘黙	7
適応障害	6
感覚過敏	5
その他	6
計	522

⑤研修会 長崎市療育研修会 5回シリーズで実施

目的：長崎市内の医療機関スタッフ、教師等の技術向上と普及を目指す

対象：医療、療育機関スタッフ、教師等

内容：第1回 『学びに苦戦している子ども達への理解と支援』

九州ルーテル大学 准教授 増本利信先生

第2回 『学習障害（読み書き障害）の評価と支援について』

～子どもの未来を変える、意欲と集中力を高める ICT 支援と資育体操～

長崎市立畝刈小学校 教諭 鴨川裕子先生

第3回 『問題行動を起こす愛着障害の子ども達に対する学校・家庭での対応〈PCIT〉』

～子どもの心や行動の問題で育児に悩む親に対し、親子の相互交流を深め、その質を高めることによって回復に向かうように働きかける心理療法。

長崎大学医歯薬学総合研究科 助教 徳永瑛子先生

第4回 『思春期 ASD の子ども達のためのソーシャルスキル・トレーニング〈PEERS〉』

～PEERS とは友達を作りたい、友好関係を続けたいという思いのある 10 代の発達障害児対象のソーシャルスキルのトレーニング。学んだ内容を実際の生活に活かせるようグループで学ぶ。

長崎大学医歯薬学総合研究科 助教 梅村亜衣先生

第5回 『学習障害等のアセスメント』

当センター公認心理師、言語聴覚士、作業療法士

参加人数：第1回 62名 第2回 64名 第3回 64名 第4回 71名 第5回 30名

2 療育・リハビリテーション

理学療法士 6人、作業療法士 6人、言語聴覚士 6人、臨床心理士 4人により次の業務を実施。

- (1) 評価、個別療育
- (2) リハビリテーション実施計画書及び経過報告書の作成
- (3) 療育内容証明書の作成
- (4) 検査結果報告書の作成
- (5) 支援会議の資料作成及び支援会議への参加
- (6) 理学療法士は、整形外科外来診察補助(毎週木曜日午後)・早期療育外来診察補助(毎週木曜日午前)

《セラピストの訓練数》

(単位：人)

	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
理学療法士	3,070	2,889	2,493	2,469	2,408
作業療法士	3,136	2,822	3,241	3,633	3,764
言語聴覚士	2,027	1,696	2,853	3,118	3,382
臨床心理士	1,018	2,090	2,410	1,902	1,922
計	9,251	9,497	10,997	11,122	11,476

3 巡回相談（保育園・幼稚園等）

発達障害児の早期発見・早期支援のため、平成 18 年度から長崎市内の保育園・幼稚園・こども園の巡回相談を実施している。令和 5 年度は、相談児数や内容にあわせて 1～2 人のスタッフで実施した。専門機関への受診を勧めるだけでなく、幼稚園・保育園、家庭で児の特徴にあわせた支援をおこなうため、園のスタッフや保護者に対して、発達障害児に合わせた支援方法や対応方法を提供し、適切な支援を行うためのアドバイスを行った。

《年度別巡回相談の実施状況》

(単位：箇所・人)

	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
巡回数(箇所)	150	161	157	167	155
新規相談数	330	361	333	375	333

4 学童グループ

今年度は低学年でのグループ希望が増えたこともあって昨年度よりグループ数が1つ増えて、計3グループで実施した。低学年のグループでは傾聴態度を伸ばし、他者を意識して関わる経験を積めるようにルールのある活動やコミュニケーション課題を実施した。高学年のグループでは適切な会話を続けることを目的に、ソーシャルスキルトレーニングを中心に実施し、適切な人間関係を築ける機会とした。年々診療所での薬物療法等によるフォローや、放課後等デイサービスなど学童期の福祉サービスが充実していることもあり、近年は学童グループの希望者は大きくは増えていない状況となっている。

① 学童グループ数の推移

(単位：グループ・人)

	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
グループ数	3	2	3	2	3
訓練総数	101	119	127	78	126

② 小学生のグループ内容

グループ	学童 1 (ぶどう)	学童 2 (まねきねこ)	学童 1 (ひまわり)
年齢	小4～6	小2～4	小1～3
対象	ADHD・ASD	ADHD・ASD	ADHD・ASD
目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎具体的なルールや約束が設定された場面で、ルールを理解し守る経験を通して、自信をつけます。 ◎行動と感情のコントロールを促します。 ◎ゲームや発表などの活動を通して、友達との協力の仕方や声のかけ方、話の聞き方など、コミュニケーションのスキルを高めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎具体的なルール・約束が設定された場面で行動と感情のコントロールを促します。 ◎ゲームや発表などの活動を通して、周囲との協力の仕方や声の掛け方、話の聞き方など、コミュニケーションスキルを高め、また自己理解を深めていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎具体的なルールや約束が設定された場面で、ルールを理解し守る経験を通して、自信をつけます。 ◎行動と感情のコントロールを促します。 ◎ゲームや発表などの活動を通して、友達との協力の仕方や声のかけ方、話の聞き方など、コミュニケーションのスキルを高めます。
実施回数	10回	10回	10回
延べ人数	49人	37人	40人

5ペアレントトレーニング

小児科医、臨床心理士がチームを組み、前期・後期の2グループ(各グループ全10回。前期・後期ともに悪天候により1回ずつ中止となったためそれぞれ9回)で実施した。

また、ペアレントトレーニングの効果を継続させること・その後の経過観察を目的として、前年度実施の保護者を対象にフォローアップを行った。

なお、グループの欠席者には個別の補講を7回実施した。

【参考：ペアレントトレーニングとは】

発達に課題を持つ子どもに対して、身近にいる家族こそが子どもに適切な行動を学習させる一番の訓練者になれるという考えに基づいたプログラム。

このプログラムを通じて、子育てについての悩みを親同士で話し合い、それぞれの子どもの行動を理解し、適切な対応を一緒に考え学習していくことを目的としている。

① 令和5年度の実施状況と登録者数 (単位：人)

	実 施 日	登録保護者
前 期 9回	5月10・24日、 6月14・28日、 7月12・26日 8月23日、 9月13・27日	6
後 期 9回	11月8・22日、 12月13・27日 1月10日、 2月14・28日、 3月13・29日	3
フォロー アップ	4月12日、 10月11日	11

② 年度別実施状況と受講者数 (単位：人)

	前期	後期	フォローアップ	合 計	延べ人数
R元年度	4	5	8 (H30年度前期・後期対象者)	17	85
R2年度	6	5	3 (R元年度後期対象者)	14	106
R3年度	5	6	6 (R2年度前期・後期対象者)	17	113
R4年度	6	5	9 (R3年度前期・後期対象者)	20	98
R5年度	6	3	11 (R4年度前期・後期対象者)	20	88

③ 利用者の意見等

- ・ 「参加する前は行動を正すために注意しなければと思い、怒ることがほとんどで褒めることが少なかったが、褒めることを意識するようになった」、「子どもの行動を客観的に理解、分析をすることができ、子どもとの向き合い方が変わった」、「子どもが可愛いと思えるようになった」、「自分だけこんなに大変なのかと悩んでいたが、同じように悩んでいる他のお母さんと同じ悩みを共有することができ、自分だけじゃないと勇気づけられた」などの感想が聞かれた。
- ・ 参加前後に実施している「子育てに対する自信度アンケート」では、多くの保護者が、参加後に高い得点になっており、この学習を通し、以前よりも子育てに対する自信がついたり前向きに子どもと向き合えるようになったと考える。
- ・ 令和5年度は、新型コロナウイルス感染症による行動制限緩和により、従来通り制限等をおこなわずに実施することができた。しかし、参加者同士の間隔を広くとる、参加者同士の接触を伴うロールプレイ(参加者が母親役と子供役を演じて実際に関わり方の練習をする)を中止し、代わりにスタッフが実演するといった工夫は継続して実施した。

【総論】

子どもの発達に不安がある多くの親子が診療所での診断を求めて来所され、診療待機が発生しており、保健所や他の施設・病院との連携を図りながら待機の解消に努めている。

今後も引き続き、小児科診療待機の解消に全力をあげるとともに、当事業団のさまざまな職種の専門職が協力し、より質の高い療育を行っていきたい。

参 考

障害福祉センターの主な利用状況等の推移

事 項 等	R元年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度
身体障害者福祉センターA型					
貸室利用者数（個人・団体）	75,015	39,235	36,154	43,573	53,474
A型訓練数（自主訓練・スポーツレク等）	11,930	9,358	9,584	11,703	10,813
〃（言語訓練）	225	144	152	173	111
A型講座利用者数	429	75	100	279	240
手話通訳件数	3,560	2,826	3,368	3,678	3,895
サポーター養成研修会参加者数	36	0	11	0	0
地域活動支援センターⅡ型利用者数	12,507	7,911	6,476	7,293	6,966
障害児等療育支援事業					
外来による療育指導件数	4,362	3,653	4,014	3,557	974
おやこ広場利用者数	49	14	7	9	24
就学児相談会相談件数	27	21	20	15	27
訪問による療育指導数	56	47	21	28	43
施設職員等に対する療育技術指導数	377	263	159	192	189
療育支援セミナー参加者数	0	60	176	81	202
相談支援事業					
相談支援延人数	9,245	8,365	7,459	7,738	7,446
難聴者・中途失聴者手話講座参加者数	398	193	227	347	365
聴覚障害者生活支援延人数	320	172	218	182	218
視覚・聴覚重複障害者生活支援延人数	151	83	70	29	37
視覚障害者リハビリテーション指導数	1,273	1,097	533	547	689
自立訓練（機能訓練）実施回数	981	920	1,166	1,230	1,120
就労支援相談（相談、訪問、情報提供）件数	2,084	2,023	1,896	1,892	2,185
児童発達支援センター					
さくらんぼ園（単独通園）延出席児数	5,881	5,713	5,647	4,806	5,377
さくらんぼ園（親子通園）延出席児数	2,597	2,359	1,997	1,606	1,932
診療所					
診療数	9,195	8,944	9,589	9,275	9,377
診療セラピストの訓練数	9,251	9,497	10,997	11,122	11,476
巡回相談件数（発達障害早期発見・支援）	330	361	333	375	333
ペアレントトレーニング延受講者数	85	106	110	98	88
合 計（参考）	150,364	103,440	100,484	109,828	117,601